

# 聖稜だより

平成28年

9月号



発行者 医療法人社団聖稜会  
 発行責任者 グエン スワン ナム  
 発行日 平成二十八年八月三十日



地域包括ケア委員長  
岡田 真司

## 「聖稜会で目指す地域包括ケアシステムについて」

初めまして、私は聖稜リハビリテーション病院に医師として勤務する、岡田真司と申します。平成28年2月に聖稜会に地域包括ケア委員会が立ち上がり、私は、そこで委員長を務めさせて頂いております。この度、『聖稜会における地域包括ケアシステム』の青写真について、このような形で皆さんと共有できる機会を頂いたことに、感謝申し上げます。

さて、この地域包括ケアシステムと

は、厚生省が団塊の世代（現在、67～69歳）の方たちが75歳になる2025年を目的に、『重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで続けることができるよう』に地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進しているものです。

また、高齢者数のピークは2042年に迎えますが、75歳以上の人口は増加し続けると予測されています。こゝに、藤枝市についても高齢化は国の水準をやや上回り、高齢化の問題が他の市町村と同様に出ることが予想されます。そうしたなか、この藤枝市の医療と介護の一翼を担う聖稜会については今後、藤枝市を中心とする志太榛原地区にお住いの方々を、どうやって守っていくのかということが今後より求められてくると思います。

聖稜会は、図1のようにリハビリ病院、老人保健施設、デイケア、デイサービス、訪問リハビリ、訪問介護、居

宅介護支援、地域包括支援センター、健康予防事業という具合に、急性期治療を除く分野においては、ほぼ網羅している部門を持つ組織体と言えます。

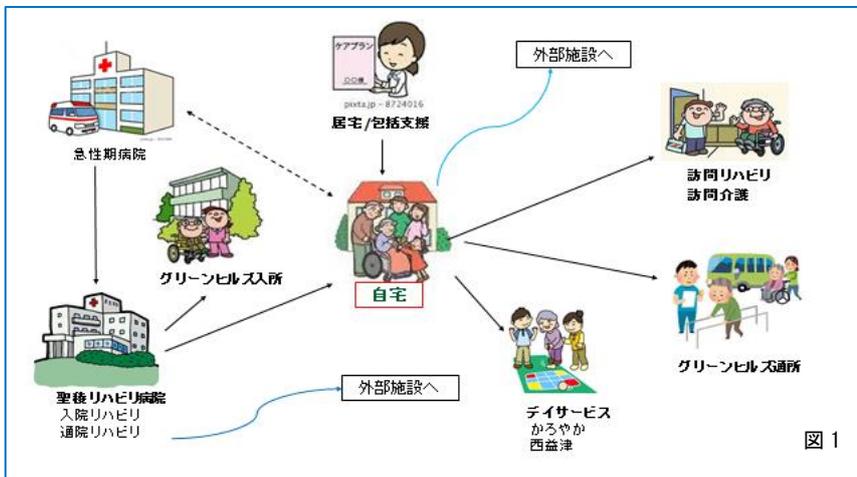


図1

ですから、図2のように急性期病院を退院された後の期間は、各部門で支えていることになると思います。そして、藤枝市を中心とする地域包括ケアシステムを担っていることも確かだと思えます。さらに次の段階は、我々聖稜会が組織体として、そこにある利用者さん・ご家族の痛みによりお応えするために、各部門がより密にどうやって連

リハビリについて、急性期以外を切れ間なく提供できる



一人の患者さんにどう連動していくか

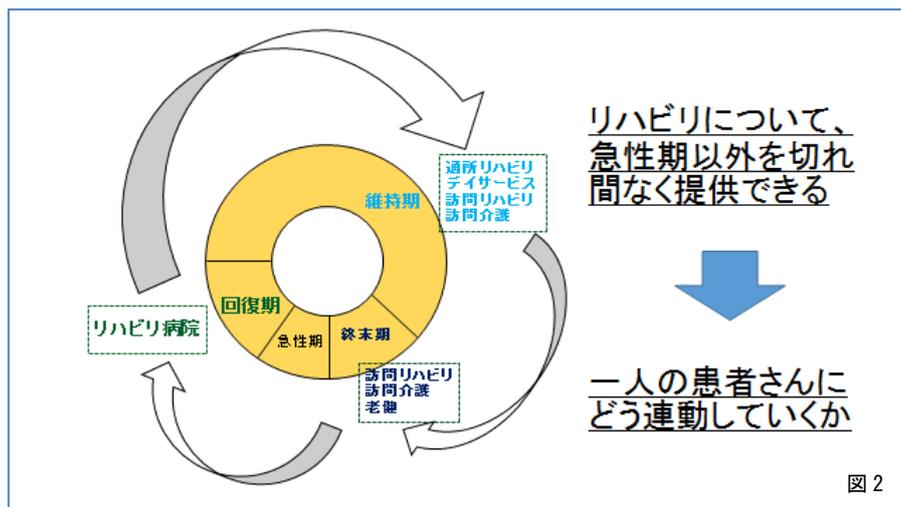


図2

携・連動することができるとか、聖稜会の職員全員でその可能性を模索して行くことにあると思います。そして、それらを繋げていくことが、我々、地域包括ケア委員会の役割であると思っています。

どこまでも面倒をみてくれる、どんなことでも相談に乗ってくれる、応援してくれる、そうしたところに、到達するだけの底力が、我々聖稜会にはあると思います。既に持ち合わせているところも多分にあり、それらをどう繋げていけるのか、みなさんの声が、現場の声が、大切な一步になると思います。

現在、委員会では、連携・連動のための第一歩として、患者さんの情報を、最適な時期に、どんな内容を、どうやって担当ケアマネや利用される施設にお伝えできるようにしていくかに取り組んでいます。どんなご意見でも構いませんので、是非、委員会に皆さんのお声を頂けたらと存じます。



## 新しい治療機器の紹介

# 「つり下げ式トレッドミル」

## 適応症例 つり下げ式トレッドミルとは？

- ・トレッドミルと可動式免荷装置を組み合わせた治療機

## 適応症例

- ・歩行が困難症例、長期臥床などで体力が低下した症例
  - ・上肢だけでは十分に身体が支えられない症例
- 適応疾患：脳卒中、脳性麻痺、脊髄損傷など

## 使用利点

- ・安定性の高い免荷状態が設定可能
- ・安全で効果的な部分荷重訓練をサポート
- ・出来るだけ早期から繰り返してたくさん歩く事が可能
- ・歩行に要する一連の下肢動作の習得が連続して行える上、歩行リズムの回復まで含めた一層の応用練習が可能

※SAKAImed ホームページより引用



つり下げ式トレッドミル



使用方法の説明を受ける様子